資料5

第2回ビジョン検討会議
委員意見要旨
（令和元年10月28日開催）

令和元年11月13日

山梨県

第2回ビジョン検討会議 委員意見要旨

○ ワーキンググループ検討状況に対する座長総括意見

- ✓ リニアがある山梨で取り組むべきテーマとして、山梨らしさがなければ面白さがなく、差別化、ブランディングが重要という認識の下、他県でやっていないことを率先してやり、日本唯一というイメージがあっても良いというメンバーの想いがある。
- ✓ 現状、経済の大きさや活力を他県と比べると相対的に劣勢であるが、悲観的に考えずにチャレンジすべきで、短所を長所に変えるという発想で新機軸を打ち出したい。
- ✓ 例えば、新技術の実験場という形で「日本一のテストベッド県を目指す」となれば、前提となる特区を最大限活用し、政府を巻き込みながら、民間の活力や資金を誘発する仕掛けづくりによって、注目を集め、人や企業が集まる可能性が考えられる。
- ✓ また、企業の本社がある東京や名古屋、大阪の中間地点にあることを活かして、研究開発機能やデータセンターが立地すれば、大都市から往来しやすいので、大都市の中間地点という地勢学的な強みを活かせるのではないかという意見もある。
- ✓ リニア開業によって、地域環境が大きく変わることは間違いないが、単純な駅前のインフラ整備ではなく、より大きな視点で人や企業を呼び込むための方策が必要であり、リニアと関連づけながら、県民に夢を与えるビジョンであってほしい。

○ これまでの議論を踏まえたテーマ例に対する意見

（３つの視点）

- ✓ 若者は大学進学や働くときに東京に出ていくが、IターンやJターンで若者を惹きつける視点が大事だ。
- ✓ 10年も経てば、働くために移動する必要性は小さくなるし、月に数回しかオフィスに行く必要がなければ、環境が良いところに住みたくなるのは当然であり、「住む」の部分をもっと先鋭化することで活路を見出せるのではないか。
- ✓ 20代、30代の優秀なエンジニアは個人で働くことが多くなっており、１ヶ月単位で住むところが変わったり、シェアリングで物事を回したりしているので、今後、若い世代がどのような働き方や居住の感覚を求めているかがポイント。
- ✓ 働き方は変わっても、人と会ってコミュニケーションをとることの重要性は不変。
- ✓ 福岡市長が「スタートアップの聖地」と言い続けて定着したように、イメージを言語化することが重要。
- ✓ 山梨の強みである「農業」にフォーカスして、トヨタをはじめとして様々な企業が力を入れているアグリテック（農業×テクノロジー）の分野を検討したらどうか。
- ✓ 最先端と言われるものが8年後には古くなっている可能性もある中で、コアになる山梨の技術をどこに見据えていくのか、秀でるものに着眼することが大事。
- ✓ 山梨は、コンパクトであるが故に集積が図られ、産業間のコミュニケーションが取りやすい環境とも言え、地形をメリットとして活かすこともできる。

（防災関係）

- ✓ 首都直下型地震、南海トラフ地震に対する内陸部のバックアップ拠点としての位置づけがあり得る。

○ 今後の検討にあたり留意すべき視点等

- ✓ テーマを絞り込む段階では、リニアの時間短縮効果による時間コストの視点を持って検討を進めてもらいたい。
- ✓ 新幹線事例では、軽井沢町や那須塩原市の各指標が増加しているので、ベンチマークとして深掘りすると良い。
- ✓ 防災拠点の整備にあたっては、短期・中期・長期で行うことを整理するとともに、財源として国の支援を求めるなど、様々な手法を検討する必要がある。